



## 日吉台小学校の礎と平和の礎

校長 吉井 宣明

6月23日は、沖縄県の「慰霊の日」です。これは沖縄戦の犠牲者を追悼する日で、今年で77年目になります。この日は、沖縄県糸満市の平和祈念公園で沖縄戦全戦没者追悼式が行われました。そこで児童・生徒代表の沖縄市立山内小学校2年生の徳元穂菜さんが自作の平和の詩「こわいをして、へいわがわかった」を朗読しました。宜野湾市の美術館を家族で訪れた際に見た「沖縄戦の図」で戦争の恐ろしさを知り、平和について考えて詩にしたそうです。絵を見て怖くなり、母親にくっついたときに感じた安心感、姉とけんかの後の仲直り。そんな日常のほっとした瞬間が平和なのだと気づき、「ずっとポケットに入れてもっておく ぜったいおとさないように なくさないように わすれないように こわいをして へいわがわかった」と、しっかりと口調で平和の尊さを訴えました。

平和祈念公園には平和の礎（いしじ）と呼ばれる記念碑があります。沖縄戦での戦没者の名前が刻まれているのですが、沖縄県民だけとか日本人だけというわけではなく、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦で亡くなられた全ての人の名前が刻まれています。命は誰もが等しく大切ということを実践し、平和とは何かを示しているような記念碑です。人々の思いや願いを強く感じさせます。徳元さんの曾祖父の名前も刻まれているとのこと。

また、翌日の6月24日は本校の創立記念日です。149年前の明治6年6月24日、学制の発布に伴い、創設されました。その10年前（文久3年）に金蔵寺の本堂で開いた寺子屋「清林学舎」を正規の小学校に移行創設することになりました。明治8年には、「小学校の校名は、村名を付けるように」という県令により「駒林学校」に校名を改めました。その校名は57年間続くこととなります。明治12年には、金蔵寺の東側に新しく平屋のかやぶき屋根の校舎が建設されました。この校舎の建設には大変な苦労があったようで、前年の9月にはほとんど完成というところで暴風に遭い全壊してしまい、一から作り直さなければならなかったとのこと。また、村の人たちは建設費用を負担するだけでなく、力を合わせていろいろな仕事をして学校づくりに携わってきました。校舎の土台となる石は、駒林村や矢上村の人たちが、牛車で鎌倉から運んできたということです。明治43年、現在の場所に移転することになりましたが、村の人たちはその鎌倉石を新しい校舎の土台石にしたということです。

その土台石の一つが、今でも東門近くに「駒林学舎礎石」として保存されています。当時の人たちが、学校に期待や願いをもって、みんなで協力して建てたことを示す。それがこの礎石なのでしょう。いつまでも大切にしていきたいですね。

